

## 第4章 公安情勢

### 日本共産党

#### 統一地方選における「選挙闘争」結果

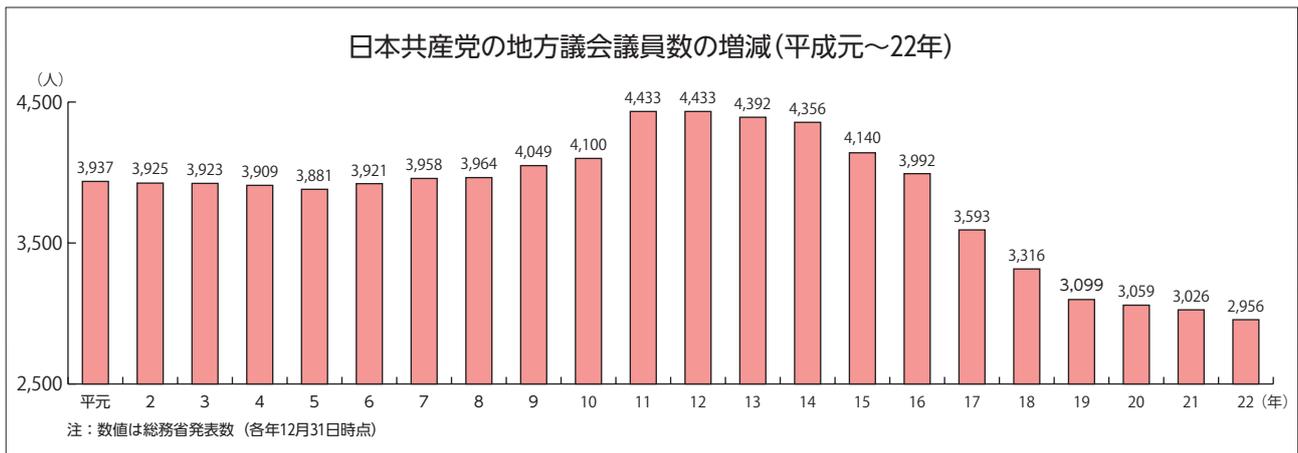
日本共産党は、平成23年4月の統一地方選挙における地方議会議員選挙で、1,209人の公認候補者を当選(注)させましたが、議席を後退させたことについて「党の自力の不足」が原因と評価し、選挙勝利の不可欠の条件は、「党の自力づくり」であり、その根幹をなすのは、党員拡大であるとして、党建設の必要性を強調しました。

日本共産党によると、統一地方選後、同党の地方議会議員数は、2,770人(23年12月12日現在)となりました。

(注) 岩手県、宮城県、福島県等では、地方議会議員選挙が東日本大震災の影響で延期されたため、この当選者数には、これらの県における選挙結果を含まない。



応援演説をする志位委員長(時事)



#### 「しんぶん赤旗」日刊紙の値上げ

日本共産党は、「しんぶん赤旗」日刊紙の読者数が、「この10年余の間に36万人から、24万人余」に減少したほか、23年に入り、毎月2億円の赤字となっており、発行の継続が危機的であるとして、7月の第3回中央委員会総会で、  
①購読料を9月1日から500円値上げし3,400円とすること、  
②現在の「24万部余から採算がとれる26万部以上に前進させる」ことの2点を確認しました。日刊紙の値上げは11年ぶりであり、500円の値上げは過去最高です。今回の値上げ措置によって、読者数の減少に拍車がかかる可能性があります。

#### 「しんぶん赤旗」日刊紙の購読料改定状況

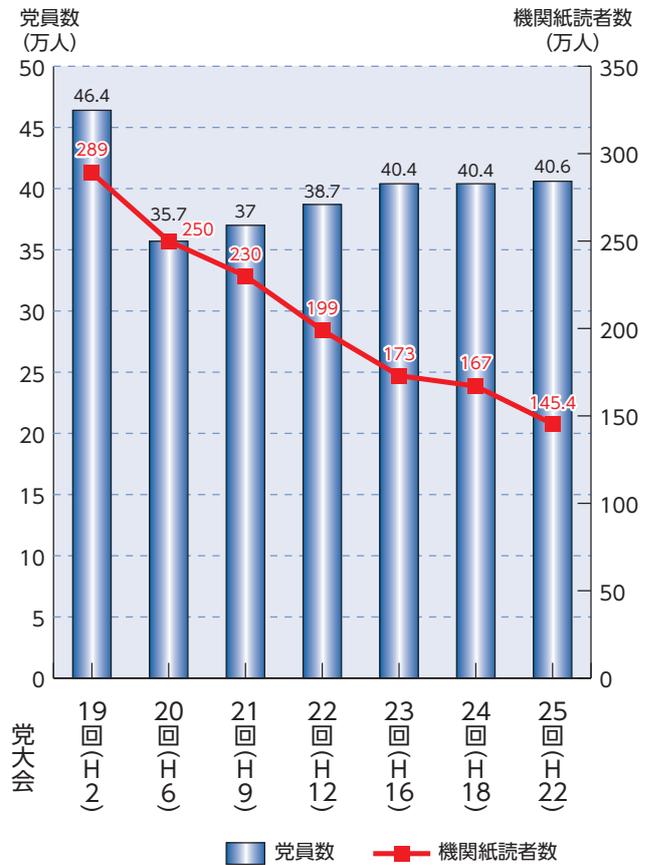
改定日等	購読料	値上げ幅
S37.10当時	200円	
S37.11.1	250円	50円
S40.9.1	280円	30円
S43.1.1	320円	40円
S43.11.1	450円	130円
S45.8.1	530円	80円
S48.9.1	750円	220円
S49.9.1	1,100円	350円
S55.4.1	1,400円	300円
S58.5.1	1,700円	300円
S61.8.1	2,000円	300円
H2.4.1	2,300円	300円
H4.2.1	2,600円	300円
H9.5.1	2,650円	50円
H12.6.1	2,900円	250円
H23.9.1	3,400円	500円

「党勢拡大大運動」の取組

日本共産党は、23年7月の第3回中央委員会総会で、24年7月15日の党創立90周年記念日までを期限とする「党員拡大を中心とした党勢拡大大運動」に取り組むことを決定しました。党員拡大では、全支部(2万1,000支部)が必ず新入党員を獲得することを、読者拡大では、全都道府県、全地区(315地区委員会)が、毎月、日刊紙と日曜版の読者を着実に増やすことをそれぞれ目標としていましたが、23年12月の第4回中央委員会総会では、「大運動」が「一部の先進的な党支部・党組織の取り組みにとどまって」いるとして、**5万人の党員、5万人の日刊紙読者、17万人の日曜版読者を増やすこと**と目標の明確化と見直しを図りました。

党現勢では、近年、党員数は微増していますが、機関紙(日刊紙、日曜版)読者数は減少傾向にあります。

日本共産党の党員、機関紙読者数の推移



今後の取組方針

志位委員長は、福島第一原発事故をめぐり、23年5月の記者会見で、「「原発からの撤退」の一点で一致する方々、さまざまな市民運動とおおいに協力共同関係をつくっていききたい」と述べたほか、8月の日本共産党創立89周年記念講演会では、大震災と原発事故による危機は、「国民の中に生まれた変化の流れを加速する一大転機」にもなり、「そのなかで日本共産党との共鳴が広がり、新しい共同がさまざまな分野で広がっている」、「大きな展望を持って奮闘しよう」と訴え、原発問題のほか、TPP推進反対、米軍基地問題等を捉えた国民運動の高まりの中で党勢拡大を図るとしています。



中央メーデーで挨拶する志位委員長(時事)